

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書きますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題を二つ(「メールと手紙」「電子書籍～」)提示し、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・「メールと手紙」を選んだ場合 → p92-93へ
- ・「電子書籍と本」を選んだ場合 → 以下へ続く

### ③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。

- ・「電子書籍」がわからなかったら説明する。

### ④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。  
〇〇さんは、電子書籍があれば本はいらないという意見に賛成ですか、反対ですか。  
どうしてですか。電子書籍の良い点は何でしょう。本の方が良い点がありますか。

- ・携帯小説などを読んだことがあるかどうか聞くのもよい。出てきた答えに「いいですね」などのあいづちを打って興味を示し、たくさん話させるとよい。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。  
それから、何を書きますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、「〇〇さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばって書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文のいいところはどこですか。どうしてそう思いますか。  
これを読んだら本を書く人はどう思うでしょうね。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



工夫したところはどこですか。  
最後のまとめはうまく書けましたか。

- ・表現の工夫や構成といった観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

- ・「読み返した。」と答えた場合は「それはいいですね。」と言うなど、推敲につながるよう読み返す習慣づけを促す。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「意見や理由がしっかり書け（言え）ましたね。」 「～というところが特にいいですね。」  
等、具体的にほめるとよい。

#### メモ:

課題は「根拠を示して意見を述べる」とこと、「適切な文体が選べる」とことの二つである。  
課題文の文体を参考に同様の書き言葉らしい文体を選び、「～だ。」や「～である。」という  
文体が使えていれば特にとりあげてほめる。「です・ます体」で書いた場合も減点にはならない  
ので、その場合は文体には触れず、内容に集中して対話をする。